

第7章 評価指標と目標の設定

1 歩いて暮らすことのできるまち

公共施設や市街地の再編が予定される第2期(平成38年度から47年度)以降を視野に低学年児童や幼児を連れた女性、高齢者等が歩いて暮らすことのできる徒歩圏400mにおける生活利便性とウェルフェア(健康福祉)の向上を図ります。

(1)生活利便性の向上に向けた施設誘致・誘導

ランドデザインの施設整備に併せて日常生活サービスの徒歩圏充足率の向上を図ります。

(対応方策)

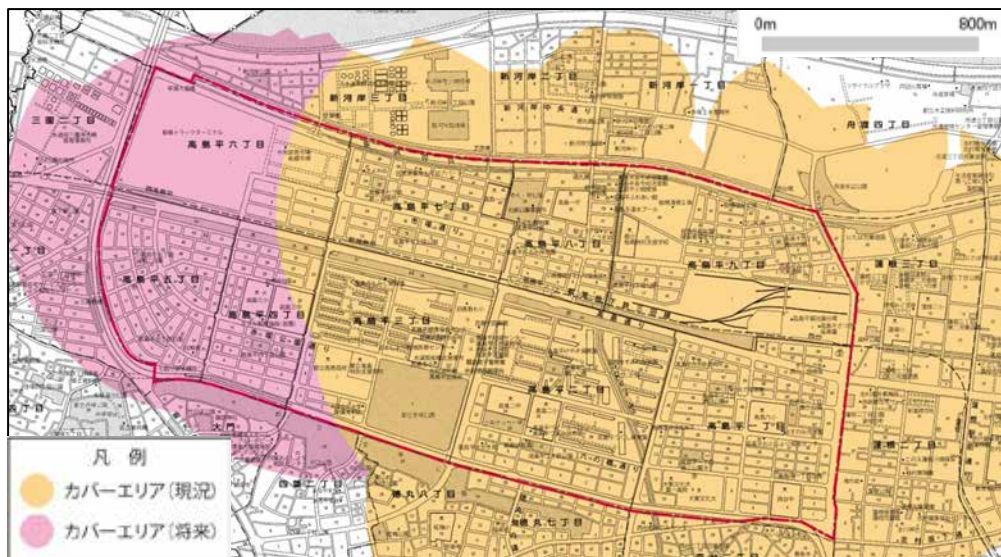
- ・医療施設(内科又は外科を有する病院もしくは診療所):
新高島平駅北側(高島平七丁目)の市街地整備に併せた誘致。
- ・福祉施設(通所、訪問系施設もしくは小規模多機能施設):
高島平団地の地域包括ケアシステムを推進し、高島平九丁目付近に施設を誘致。
- ・商業施設:西台、新高島平駅周辺に、買い回り品を含むスーパー等を誘致。
- ・基幹交通:高島平一丁目内にバス停を誘致。

800m徒歩圏における日常生活サービス施設の充足率の100%を達成、ヒューマンスケールを考えた400m徒歩圏の充足率を現況の52.3%からほぼ達成となる70.0%以上に引き上げることをめざします。

徒歩圏	評価指標	現況	将来(目標)
800m	医療施設の徒歩圏人口カバー率	100.0%	100.0%
	福祉施設の徒歩圏人口カバー率	100.0%	100.0%
	商業施設の徒歩圏人口カバー率	90.0%	100.0%
	基幹的公共交道路線の徒歩圏人口カバー率	100.0%	100.0%
	日常生活サービスの徒歩圏充足率	90.0%	100.0%
400m	医療施設の徒歩圏人口カバー率	97.5%	99.9%
	福祉施設の徒歩圏人口カバー率	90.5%	99.2%
	商業施設の徒歩圏人口カバー率	63.5%	80.1%
	基幹的公共交道路線の徒歩圏人口カバー率	96.6%	98.0%
	日常生活サービスの徒歩圏充足率	52.3%	70.0

日常生活サービスの徒歩圏充足率:医療、福祉、商業と基幹的交道路線の全てを徒歩圏で享受できる人口の比率
徒歩圏人口カバー率:各生活サービス施設の徒歩圏に居住する人口の比率

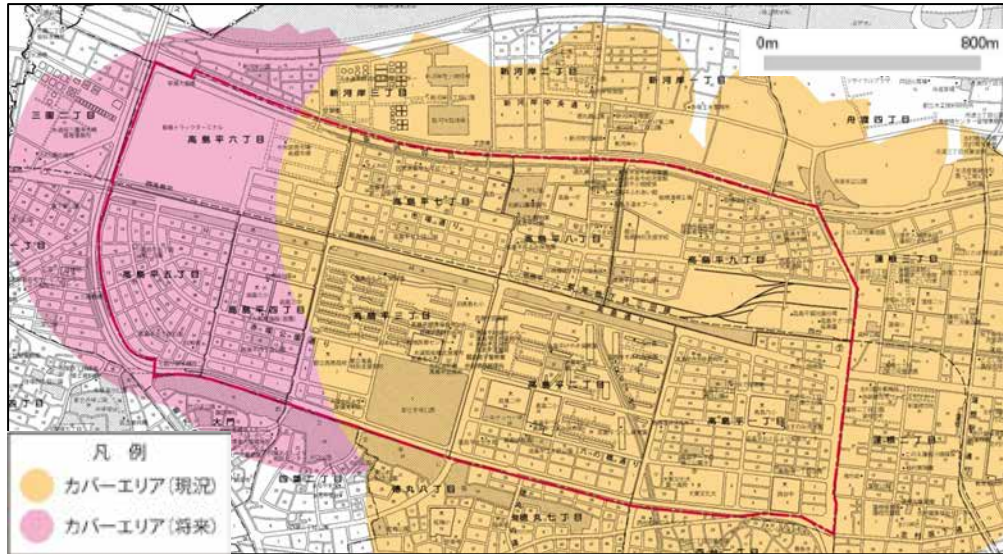
徒歩圏400mの考え方:公共施設の集会所や図書館等では、徒歩10分で半径500mを基準として配置している高島平地域ランドデザインでは、資料集P194に記載しているように、低学年児童や高齢者の歩行速度を標準歩行速度の3分の2程度と想定し、景色を楽しみながら歩くとの視点から半径で400mを基準として評価することとしています



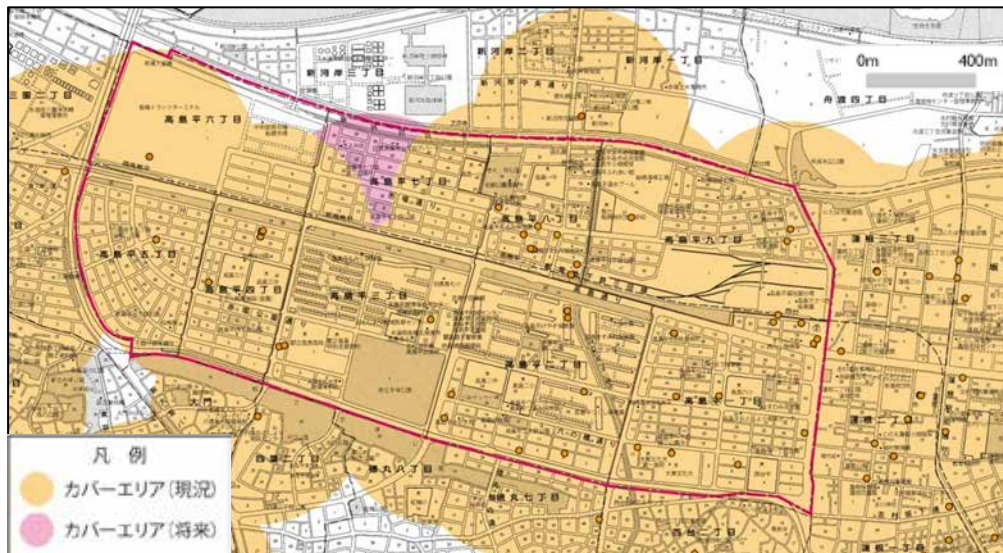
図：日常生活サービスの半径 800m 徒歩圏カバリア



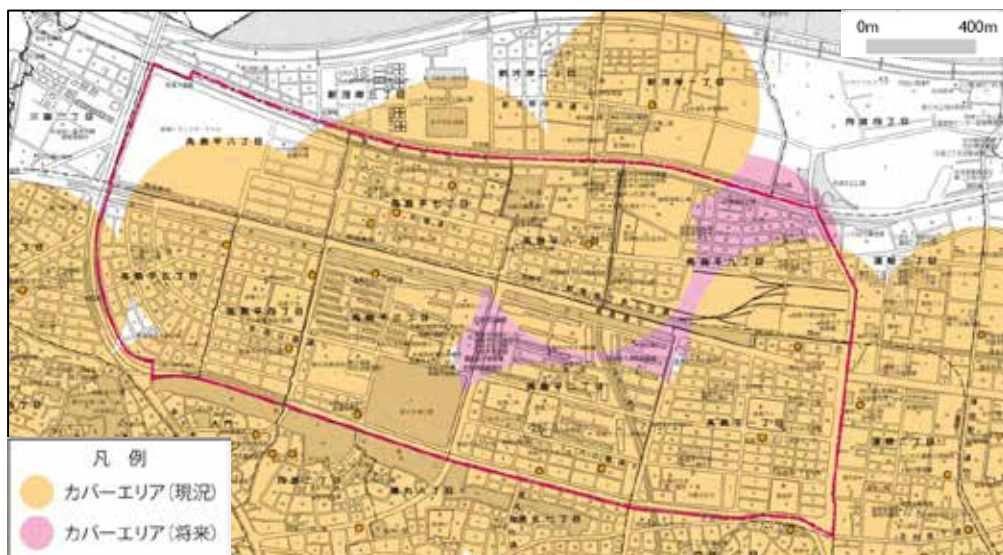
図：日常生活サービスの半径 400m 徒歩圏カバリア



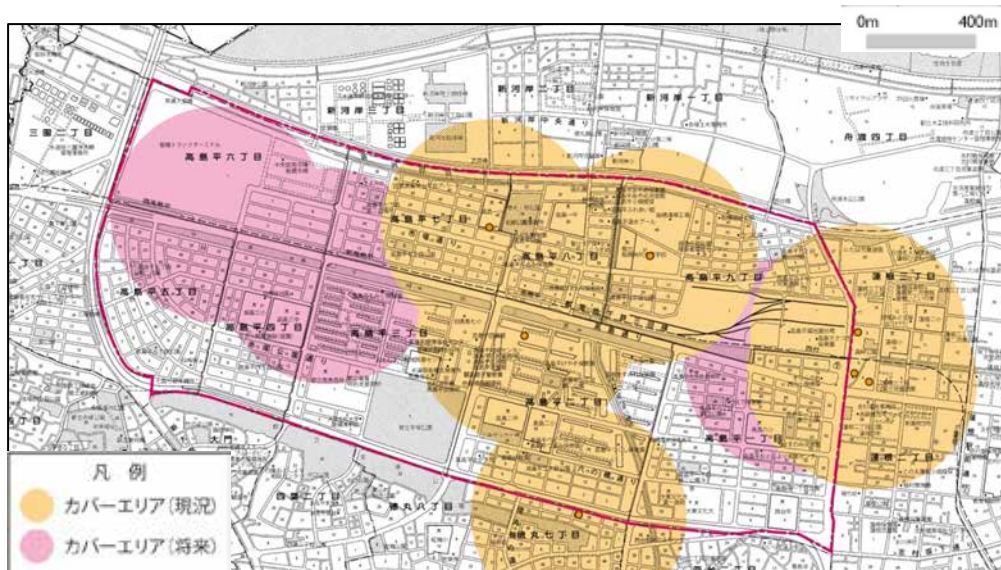
図：商業施設の半径 800m 徒歩圏カバーエリア



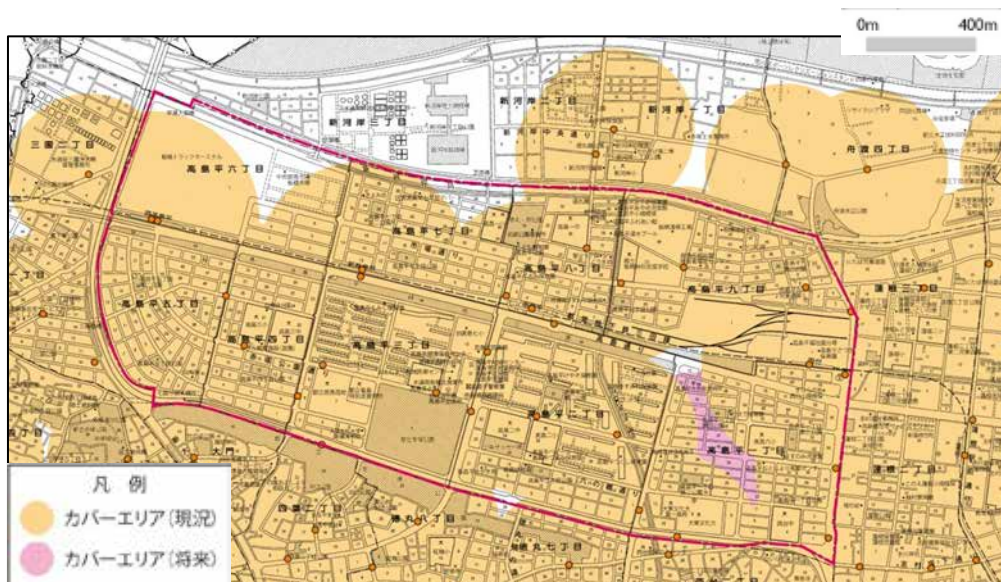
図：医療施設の半径 400m 徒歩圏カバーエリア



図：福祉施設の半径 400m 徒歩圏カバーエリア



図：商業施設の半径 400m 徒歩圏カバーエリア



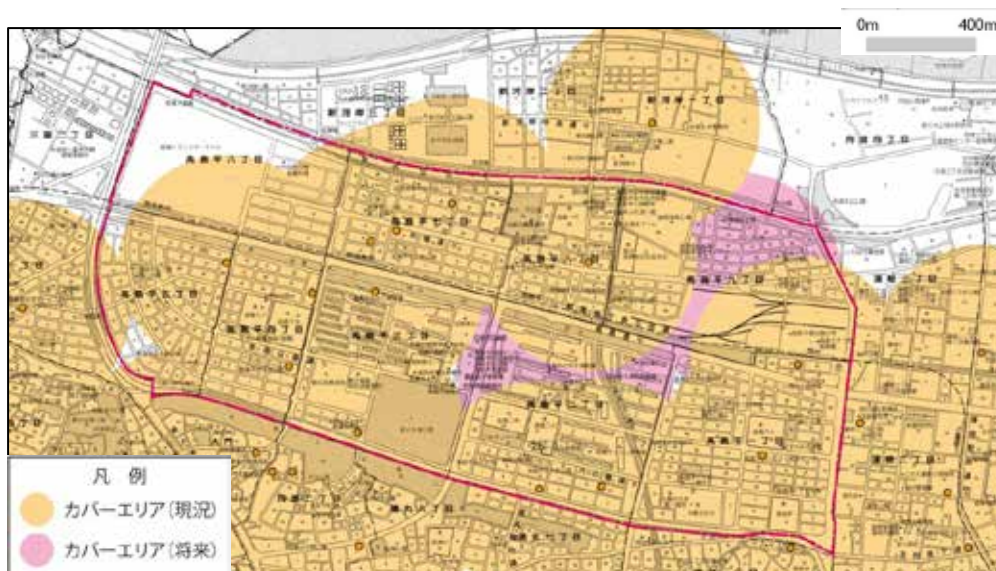
図：基幹交通路線までの徒歩圏カバーエリア
(駅半径 400m、バス停半径 300m)

(2) ウェルフェア（健康福祉）の向上に向けた施設誘致・誘導

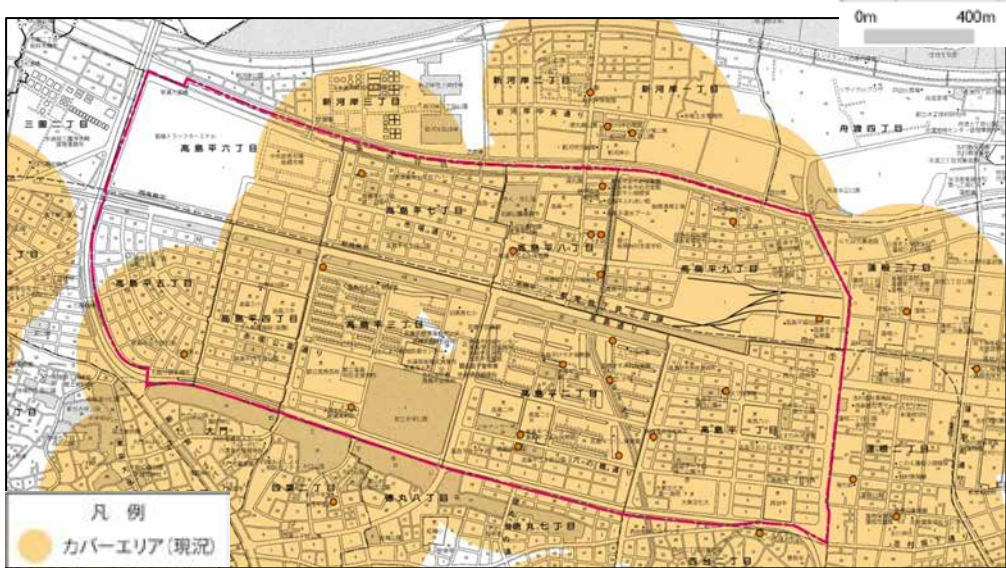
高齢者福祉施設に関しては、生活利便性に関する評価と同様、高島平団地の地域包括ケアシステムの推進と高島平九丁目に通所、訪問系施設もしくは小規模多機能施設を誘致することで、高齢者が徒歩で生活できる環境の向上をめざします。保育所、歩道・公園整備率については、現況で800m、400m徒歩圏ともほぼ100%近い数値となっていることから、将来的にも現在の数値を維持します。

徒歩圏	評価指標	現況	将来（目標）
800m	福祉施設の高齢人口カバー率	100.0%	100.0%
	保育所の徒歩圏0～5歳人口カバー率	100.0%	100.0%
	公園緑地の徒歩圏カバー率	100.0%	100.0%
400m	福祉施設の高齢人口カバー率	88.6%	99.4%
	保育所の徒歩圏0～5歳人口カバー率	97.7%	➡
	公園緑地の徒歩圏カバー率	100.0%	100.0%

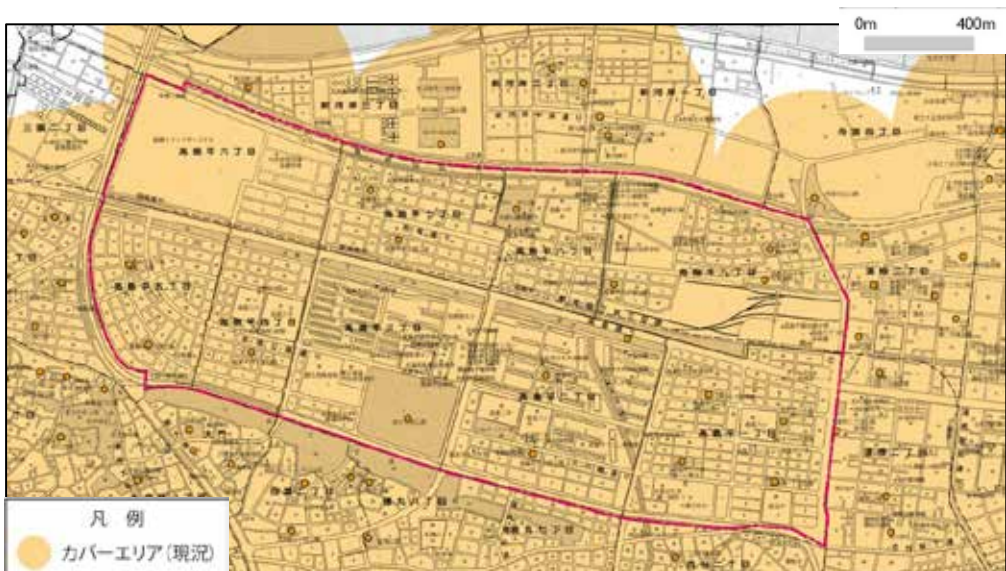
歩道整備率（国道・都道）は、100%



図：福祉施設の半径400m徒歩圏カバリエリア



図：保育所の400m徒歩圏カバーエリア



図：公園緑地の400m徒歩圏カバーエリア

2 区内に暮らし続けたいまち

高島平地域の都市再生が周辺地域にも良い影響（効果）をもたらすと考え、「板橋区区民意識意向調査」（隔年実施、最近は平成 25 年度実施）の定住意向（「今後も区内に住み続けたい」など）に関する数値の改善をめざします。

（例）

評価指標	現況	将来（目標）
高島平地域における 「今後も区内に 住み続けたい」意向 (n = 253)	86.6% (区外に移り住みたい 12.3%)	92.0% (区外に移り住みたい 7.0%)

3 目標人口

平成27年度末に策定予定の『区の人口ビジョン』を踏まえて、高島平地域の目標（想定）人口を設定します。

4 4つのテーマに応じた指標

「にぎわい」、「ウェルフェア」、「スマートエネルギー」及び「防災」の4つのテーマに応じたハード、ソフトからの成果指標を、新基本計画の施策体系に関して設定する成果指標などを勘案し、統計調査等及び板橋区区民意識意向調査の高島平地域における施策満足度から複数設定します。

【にぎわい】

評価指標	現況	将来（目標）
卸売・小売業の事業所数	432 事業所 (H21 年)	
卸売・小売業の従業者数	4,960 人 (H21 年)	
自転車走行空間整備率（自転車専用路線の延長距離 / 早期整備予定路線の延長距離）	38.68% (H26 年 4 月)	
三田線の一日平均乗車人員数 (西台、高島平、新高島平、西高島平各駅の合計)	38,522 人 (H25 年)	

【ウェルフェア】

評価指標	現況	将来（目標）
保育需要に対する充足率	91.8% (H27 年 4 月)	100.0%
児童館利用者に占める乳幼児及びその保護者の割合	55.17% (H26 年度)	
高齢者に占める要介護者の割合	13.6% (H26 年 10 月)	
地域包括支援センターの相談件数	5,465 件 (H25 年度)	




区全体でも、18.1%(H26 年度)が平成 37 年には 23.0%になると予測されており、今後も上昇することが予想されています。その為、上昇率を抑制することをめざします。

【スマートエネルギー】

評価指標	現況	将来（目標）
区内エネルギー消費量（熱量換算）	24,307TJ (H24 年度)	
区内CO ₂ 排出量	2,233 万 t-CO ₂ (H24 年度)	

関係機関から提供されたデータであり、高島平地域の数値が算出出来ない為、代替指標として区内全域の値を準用しました。

【防災】

評価指標	現況	将来（目標）
指定重点犯罪等認知件数	40 件 (H26 年)	
震災に強いまち（板橋区区民意識意向調査：施策の満足度 n = 253）	-0.26 (H25 年度)	
水害対策（板橋区区民意識意向調査：施策の満足度 n = 253）	0.06 (H25 年度)	

区民意識意向調査における加重平均値であり、「満足」に“ + 2 ”、「まあ満足」に“ + 1 ”、「どちらでもない」に“ 0 ”、「やや不満」に“ - 1 ”、「不満」に“ - 2 ”を与え、算出しています。したがって、“ 0 ”を基準に数値が大きいほど満足度が高く、数値が小さいほど不満度が高いことが示されます。最大値は“ 2 ”で、これは全回答が「満足」であったことを示し、最小値は“ - 2 ”で、これは全回答が「不満」であったことを示します。

5 健全な区政経営

評価指標	現況	将来（目標）
住民 1 人当たりの税収額 (区民税)	98 千円 (H26 年 8 月)	